

成果の説明書

(氏名) 佐藤英人	(学部) 地域政策学部
<p>1 重要事項</p> <p>○教育上の成果に関する事項</p> <ul style="list-style-type: none">・本年度は、演習I, 演習II, 基礎演習, 地理学, 現代の都市問題, 都市地理学, 地域政策学入門, 地域政策を学ぶ(リレー講義), 都市地理学特論(大学院前期博士課程), 都市地理学特別演習(大学院後期博士課程)を担当した。学生が予習できるように、レジュメ等を Microsoft 社 teams で事前配布した。授業ではパワーポイントを用いて、イメージしやすい授業運営を心がけた。加えて、学生との対話を大切に、積極的な問いかけをおこなった。その結果、「授業に関する学生アンケート(前期)」では、地理学(履修者31名)の総合評価が91.7点となり、大学全体の平均点(84.9点)を上回った。教材等の効果的な提示と教員の熱意に関する項目で高い評価を得た。・基礎演習(2年生)では、ゼミ生の興味関心に基づき、リチャード・フロリダ(2014)『新クリエイティブ資本論—才能が経済と都市の主役となる—』ダイヤモンド社, 488pを輪読し、クリエイティブクラスのあり方などを議論した。・演習I(3年生)では、卒業論文執筆に向けたトレーニングとして簡易 GIS ソフト「MANDARA」の操作と Excel による地域分析に関する実習をおこなった。グループ研究で取り組んだ「高崎市中心市街地におけるコミュニティサイクルの利活用—高チャリと全国のコミュニティサイクルを比較して—」は、日本地域政策学会第22回全国研究【東京】大会学生ポスターセッションで発表した。・演習II(4年生)は、卒論指導が中心となる。就職活動等で多忙の中、ドラフト原稿の添削指導をおこなった。卒論の中間発表の場として、早稲田大学教育学部社会科地理歴史専修との合同ゼミ(2023年8月28~29日:対面・遠隔のハイブリッド開催)を開催した。卒論生の報告に対して2・3年生が聴講者となり、質疑応答をおこなった。その結果、卒論生12名が無事に卒業論文を提出した。・早稲田大学教育学部には、非常勤講師として出講し、都市地理学, 地誌学研究, 地理学演習I(3年生), 地理学演習II(4年生・卒論指導を含む)を担当した。 <p>○研究上の成果に関する事項</p> <p>1) 論文・著書</p> <ul style="list-style-type: none">・佐藤英人「高崎市中心市街地におけるオフィス立地—コロナ感染拡大前後の比較から—」(高崎経済大学地域科学研究所編『地方都市における中心市街地の課題—人口減少時代におけるまちづくり—』日本経済評論社), pp107-129. 2024・佐藤英人「業務核都市」(公益社団法人日本地理学会編『日本の都市地理学研究』古今書院), pp197-212. 2024 <p>2) その他の著作物</p> <ul style="list-style-type: none">・佐藤英人「はしがき」(佐藤英人ゼミナール編『卒業論文集』) Vol. 8, p1. 2024・佐藤英人「高崎市中心市街地におけるオフィス立地—コロナ感染拡大前後の比較から—」高崎経済大学地域科学研究所ブックレット vol.10, pp13-16. 2024 <p>3) 学会発表・講演会等</p> <ul style="list-style-type: none">・佐藤英人「人口減少社会を迎える住宅地の過去・現在・未来—旧高崎市の事例を中心に—」群馬県高等学校教育研究会地理部会講演会(伊勢崎市立四ツ葉学園中等教育学校), 2023年12月8日・佐藤英人「高崎市中心市街地における業務機能の立地変化—新型コロナウイルス感染拡大を受けて—」群馬地理学会研究発表会(群馬県庁), 2023年11月11日	

<ul style="list-style-type: none"> ・佐藤英人「地方を元気にする地域づくりを考えてみよう！」出前授業（茨城キリスト教学園高等学校），2023年10月17日 ・佐藤英人「都心と郊外の比較からみた住民属性の特徴と住まい方―旧高崎市を事例として―」日本地域政策学会第22回全国研究【東京】大会都市分科会（東洋大学白山キャンパス），2023年7月9日 <p>4) 情報提供・その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Bloomberg News 東京支局政治経済チーム「子どもの数が増加している都市に見られる地理的・政策的特徴と経済構造」に関する取材協力，2023年9月27日 ・NHK 大津放送局 おうみ発 630「しがりサーチ～子どもの割合が全国2位の滋賀。なぜ子どもが多いのか。子どもを育てやすい環境づくりを進める自治体の取り組みや課題を取材。少子化解消のヒントを探る」，初回放送日:2023年6月20日 ・(株)東京カンテイ「首都圏における不動産情報の検索サービス」に関する情報提供，2023年9月7日 ・「東京一極集中の是正に向けた多拠点居住の可能性に関する基礎的研究」（研究代表者：佐藤英人）日本学術振興会科学研究費助成事業 基盤研究(C)2022-2025年の継続 <p>○職務上の成果に関する事項</p> <p>1) 学外業務</p> <ul style="list-style-type: none"> ・群馬地理学会 理事 庶務委員会 委員長，2021年10月―現在 ・日本地域政策学会 理事 事務局長，2023年6月―現在 ・東京地学協会 編集委員会 委員，2019年4月―現在 ・東京地学協会 地学雑誌特集号「人口減少と地方」編集委員長，2023年9月―現在 ・2023年度関東都市学会春季大会シンポジウム 司会進行，2023年5月20日 ・高崎市 都市計画審議委員会 委員，2023年6月―現在 ・市原市 市民による事務事業レビュー 委員，2023年11月19日 ・そのほか，東京大学人文地理学研究等の査読審査委員 <p>2) 学内業務</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域政策学部 学部長補佐（入試担当），2023年4月―現在 ・地域政策学部 人事委員会 委員，2023年4月―現在 ・地域政策研究科 修士論文審査委員会 副査，2017年4月―現在 ・地域科学研究所 所員，2014年5月―現在 <ul style="list-style-type: none"> - 「地方都市中心市街地研究」メンバー，2019年4月―2023年3月 - 「日本における「持続可能な地域」実現の展望と課題―ガバナンスと域内経済循環の観点を中心に―」メンバー，2021年4月―現在 - 「高崎経済大学周辺の地域交通とその将来性に関する研究」メンバー，2023年4月―現在
<p>2 その他の事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特になし。
<p>3 次年度以降の計画・抱負</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育上の計画としては，授業改善を継続し，教員―学生間の双方向教育を通じて，学生による自発的な学びの醸成に努めていきたい。 ・研究上の計画としては，下記の研究に取り組んでいく予定である。 日本における「持続可能な地域」実現に関する研究（地科研P），東京一極集中の是正に向けた多拠点居住の可能性に関する研究（科研費・個人研究），不動産競売の地理的偏在に関する研究（共同研究），居住機能の集約と拡散に関する研究（個人研究）